



TOKYO 1964

すばらしい土木技術をもういちど

第92回 EVENING THEATER

東京オリンピック1964と交通革新

日比谷279米地下鉄工事記録

— 帝都高速度交通営団 地下鉄2号線 日比谷一工区建設記録 —

川の上を走る高速道路

— 江戸橋インターチェンジと日本橋附近 —

解説 東京地下鉄(株) 平野 隆

2016年11月21日(月) 18:00 開場 18:30 開演 参加無料

土木学会 講堂 (JR中央線・地下鉄丸の内線・南北線「四ツ谷」駅下車徒歩5分)

HPにて参加申込み受付

<http://committees.jsce.or.jp/avc/>

土木学会は建設系CPD協議会に加盟しています。イブニングシアターは、CPDプログラム(2単位)です。

問合せ先：土木学会土木図書館 土木技術映像委員会担当

公益社団法人 土木学会 土木技術映像委員会 主催

上映作品

日比谷279米地下鉄工事記録

—帝都高速度交通営団 地下鉄2号線 日比谷一工区建設記録—

企画 株式会社間組 制作 株式会社英映画社 1964年 55分
第3回産業映画コンクール産業映画大賞受賞



東京オリンピックまでの完成をめざして、1962年に着工された東京メトロ（当時は帝都高速度交通営団）日比谷線（地下鉄2号線）の日比谷一工区279mの建設記録です。この区間は、交通量が極めて多い晴海通りの日比谷から有楽町までの路面下の工事だが、工期は20ヶ月と短く、軟弱なシルト層の掘削や老朽化した排水管の処理に直面し、難工事が予想されました。地下の構造は3層で、1層は共同溝と自動車道路、2層は日比谷駅の施設、3層部分に複線の線路とホームが造られました。短い工期中に完成させる為、潜函工法と開削工法を併用する方法が初めて採用され、都電が走る晴海通りの下に10基の潜函を10m前後の間隔を開けて並べ、潜函相互の間は開削工法で施工されました。この映画は、オリンピック前の都心の活気に満ちた風景を織り込みながら、工法や工事の進捗状況を丁寧に紹介するとともに、厳しい条件下で奮闘する作業員たちの姿も描いています。

川の上を走る高速道路

—江戸橋インターチェンジと日本橋附近—

企画 首都高速道路公団 制作 理研科学映画株式会社 1964年 30分



現在は都心環状線の一部となっている日本橋上空の首都高速道路。この川の上を走る高速道路が生まれるまでには景観への配慮や新しい構造のチャレンジ、新たな施工方法の開発など、技術者と職人たちの努力がありました。完成後は賛否両論ある日本橋上空の高速道路であるが、従来の橋梁や道路などの観念を離れた全く新しい構造を持ち、限らない発展を続ける大東京の中心部に美しい曲線を描く高速道路は新たな東京の径間として、首都機能を支える動脈となりダイナミックなスケールとメカニックな美しさを現在も維持しています。この映画は、これらができるまでの工夫と苦勞、努力の過程を描いたものです。